

利用者虐待・介護ストレスどちらもノー

先日、単なる噂かも知れませんが利用者の知り合いと称する方からの苦情を病院の方を通して小耳に挟みました。この点は既に職員内での話し合いをしていると思います。

またつい最近仲の良い夫婦の夫が認知症の妻の介護に疲れて妻を殺害し自殺を図るも成らず逮捕された方が食を絶ち亡くなりました。何故拒食をしたのか判らないと警察の公式発言ですが、心情は痛いほど皆さん判るでしょう。

当たり前のことですが、どれもあってはならないことです。利用者虐待は絶対あってはならないことですし、介護ストレスも放置できないことです。

まじめに取り組めば取り込むほど息切れをして破滅に向かいかねないのが介護なのです。そしてそれに少しでも役立てるように努力することが私達の仕事です。私達は介護される人、介護する家族、そして我々施設スタッフ仲間、その3者全部のためにその存在意義があります。お互いに心の余裕を持てるようにすることでもあります。

虐待は自分ではしていないつもりでも第三者が見たら虐待に当たるということは充分あり得ることです。私達はプロですので常に第三者が見たらどう見えるかということを中心に意識しておく必要があります。後になって自分の考えをどう説明しようが言い訳にしかありません。プロとしての基本であると思って下さい。李下に冠を正さず・瓜田に履を納れず、です。

一方、介護ストレスも程良いストレスは良いストレスに転換できますが、限界もあるでしょう。罵倒されたり、かじられたり、つねられたり、暴力をふるわれたり、言い出したらきりがありません。スタッフ間の軋轢も利用者間トラブルも同じです。

我慢しなさい、だけでは決して解決にならないことは現場にいれば実感できます。

一つ言えることは、何事も独りで抱え込むことだけでは解決にならないということです。仲間と互いが話し合いながら良いストレス発散を工夫し続けることが必要です。

前向きな発想でこの介護ストレスも乗り越えて良いストレスに替えるような見方、これを常に意識していく必要があります。

私達スタッフも生きて行く上で最も大切なものは「自信」です。その苦情が当たっているかどうかは別として、このような苦情のたびに反省して軌道修正を忘れなければ決して王道を外れることはありません。仕事への自信に繋がるということです。

施設としてもできる限りの援助・バックアップをしたいと考えておりますので、介護ストレスを乗り越えてより良い介護を目指しましょう。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者の QOL・職員の QOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

